

宇都宮市立錦小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」について、肯定的割合は100%に近く、県より3.3ポイント上回っている。家で宿題に取り組むといった基本的な学習習慣が身に付いていると考えられる。

●「家で、学校の授業の復習をしている」について、肯定的割合は、県より27.5ポイント下回っている。宿題に取り組むだけでなく、授業の復習にも自主的に取り組む習慣が付くように、家庭と連携しながら家庭学習を推奨していく。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」について、肯定的割合は、県より15.5ポイント下回っている。課題の提示の仕方等を工夫するなど、児童が自分から学習に取り組みたくなるように努めていく。

○「自分のもっている能力を十分に発きたい」についての肯定的割合は、県より8.3ポイント上回っている。児童のよさや個性を生かせる指導を行ったり機会を作ったりするなど、児童が能力を発揮できていると感ぜられる場面を増やしていきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」についての肯定的割合は、県より12.7ポイント下回っている。分からないところをそのままにせず、自分で調べる習慣がつくように、授業の中でも辞書を活用する機会を作っていく。

○「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」についての肯定的割合は、県より5.5ポイント上回っている。今後も、自然やうちゅうについて話題にしたり理科の学習や普段の生活と結びつけて考える機会を設け、興味・関心を高められるように指導していく。